文法概説

コピュラ動詞　現在形

「A は B である」

「彼は賢い」や、「あなたは背が高い」などという表現の際に用いる、基本文型の1つです。英語では be 動詞として学んだと思います。ウルドゥー語では、hōnā がこれに相当する動詞で、ここではこの動詞のことをコピュラ動詞と呼びます。英語と同様に、主語となる人称代名詞により、動詞の部分が変化します。

コピュラ動詞現在形

	単数			複数		
一人称	ہوں hūṅ	←	میں maiṅ	ہیں haiṅ	←	ہم ham
二人称	ہو hō	←	تم tum	ہیں haiṅ	←	آپ āp
三人称	ہے hai	←	وہ vō	ہیں haiṅ	←	وہ vō

この変化では、主語の性は動詞に影響を与えません。つまり、「私」が男性でも女性でも、「～である」という部分は、常に同じ形です。また、三人称では「彼」と「彼女」、および「彼ら」と「彼女ら」を同じ語彙で表すことにも気をつけてください。

それ以外にも、複数形の場合、主語が何であっても、動詞の形は常に同じです。

例文

میں جاپانی ہوں۔ (maiṅ jāpānī hūṅ.)

私は日本人です。

آپ پاکستانی ہیں۔ (āp pākistānī haiṅ.)

あなたはパキスタン人です。

ہم دوست ہیں۔(ham dost haiṅ.)

私たちは友人です。

یہ عقلمند ہے۔ (ye `aqlmand hai.)

彼（もしくは彼女）は、賢い。

コピュラ動詞過去形

以下に示す表は、コピュラ動詞の過去形変化を示しています。現在形では、主語の性が何であるかにかかわらず、動詞は同じ形でしたが、過去形では制により別の形となります。上段は主語が男性の場合、下段は主語が女性の場合の形です。

また、一人称複数形は、主語の性にかかわらず、男性複数形しか用いられません。

コピュラ動詞過去形

	単数	複数
一人称	تھا tʰā تھی tʰī میں	تھے tʰē ہم
二人称	تھے tʰē تھی tʰī تم	تھے tʰē تھیں tʰiṅ آپ
三人称	تھا tʰā تھی tʰī وہ	تھے tʰē تھیں tʰiṅ وہ

例文

ہم بچے تھے۔ (ham baccē tʰē.)

私たちは子供だった。

آپ بڑی تھیں۔ (āp baṛī tʰīṅ.)

あなた（女性）は大きかった（背が高かった）。

میں چھوٹا تھا۔ (maiṅ cʰōṭā tʰā.)

私（男性）は小さかった（背が小さかった）。

وہ بڑا نہیں تھا۔ (vō baṛā nahīṅ tʰā.)

彼は大きくなかった（背が高くなかった）。

コピュラ動詞未来形

以下に示す表は、コピュラ動詞の未来形変化を示しています。過去形の変化と同様、主語の性により、動詞の語尾が変化することに注意してください。上段が男性形、下段が女性形です。過去形の場合と同様、一人称複数形には男性形しかありません。

コピュラ動詞未来形

	単数			複数		
一人称	گا gā گی gī	ہوں hūṅ	میں	گے gē	ہوں hōṅ	ہم
二人称	گے gē گی gī	ہو hō	تم	گے gē گی gī	ہوں hōṅ	آپ
三人称	گا gā گی gī	ہو hō	وہ	گے gē گی gī	ہوں hōṅ	وہ

例文

کل بارش ہوگی۔ (kal bāriš hō gī.)

明日は雨でしょう。

ہم وہاں ہوں گے۔ (ham wahāṅ hōṅ gē.)

私たちはそこにいるでしょう。

وہ بہت خوش ہوں گی۔ (vō bahut xuš hōṅ gī.)

彼女たちはうれしいでしょう。

動詞の過去形

動詞の過去形は、過去分詞を用いて表します。ほぼすべての動詞が規則的な変化をしますが、ごく一部の動詞は不規則変化をします。

（注意） 他動詞の過去形

動詞の語尾は、主語の性・数に応じて変化します。しかし、他動詞の過去分詞を用いる文（本課で学ぶ過去形を含みます）では、直接目的語の性・数に応じて動詞が変化します。意味上の主語には、後置詞 ne が付加されるため、文法的には、動詞の変化に影響を与えることができません。たとえば、以下の例文を考えてみます。

ہم نے کھانا کھایا۔ (ham ne kʰānā kʰāyā.)

私たちは食事をした。

意味上の主語である「私たち」には後置詞 ne が付加されています。したがって、動詞 kʰāyā は、食事(kʰānā)という男性名詞単数形に応じた変化をしていることになります。

میں نے کتاب پڑھی۔ (maiṇ ne kitāb paṛʰī.)

私は本を読んだ。

この例文でも、本(kitāb)が女性名詞単数形なので、動詞 paṛʰī はそれに応じた形になっています。意味上の主語 maiṇ は男性でも女性でも、動詞には影響を与えません。

آپ نے کمرے لیے۔ (āp ne kamrē liyē.)

あなたは部屋を取った。

ここでは、取った部屋が複数形になっているため、動詞もそれに応じた形（ここでは男性複数形）になっています。

上記のとおり、他動詞の過去形では、後置詞 ne が必要であること、動詞の部分は直接目的語に応じて変化していることがわかります。日本語とは考え方が大きく異なりますので、気をつけなければなりません。

後置詞

ウルドゥー語には、日本語の助詞に似た働きをする、後置詞と呼ばれる品詞があり

ます。名詞の「後」に「置かれる」「詞」です。ウルドゥー語の名詞は、後置詞が来る場合、主格から後置格へと格が変わります。上記の ne 以外にもさまざまな後置詞があります。

また、単独で用いる場合以外にも、ほかの副詞や名詞などとともに用いられる後置詞もあります。

こうした後置詞を用いた文をいくつか見てゆきましょう。

کیا یہ آپ کا سامان ہے؟ (kyā ye āp ka sāmān hai?)

これはあなたの荷物ですか？

یہ کتاب میری ہے۔ (ye kitāb mērī hai.)

この本は私のです。

上記2つの例文は、所有を表す後置詞 ka (ke、ki) を用いたものです。この後置詞だけは、そのあとに来る名詞（相当語）の性・数に応じて変化します。つまり、あとの名詞が男性名詞単数形なら ka、男性名詞複数形なら ke、女性名詞なら ki となります。

また、一つの節の中に後置詞 ka は1度のみ用いることができます。次の例を見てみましょう。日本語の「の」にあたる ka や ke がどのように用いられているかに注意してください。

آپ کا نام کیا ہے؟ (āp ka nām kyā hai?)

あなたの名前は何ですか？

آپ کے بھائی کا نام کیا ہے؟ (āp ke b^{h}āī ka nām kyā hai?)

あなたの兄（あるいは弟）の名前は何ですか？

آپ کے بھائی کے والد کا نام کیا ہے؟ (āp ke b^{h}āī ke wālid ka nām kyā hai?)

あなたの兄（あるいは弟）の父親の名前は何ですか？

مجھے پانی دیجیے۔ (muj^{h}ē pānī dījiyē.)

مجھ کو پانی دیجیے۔ (muj^{h} ko pānī dījiyē.)

私に水をください。

後置詞 ko についても、代名詞と結びついて、1語を形成することがあります。上記の例にある muj^{h}ē は muj^{h} ko という形を用いてもかまいません。どちらを用いても意味に差はありません。代名詞 ham（私たち）、vō（彼、彼女、彼ら、彼女ら）や tum（君）のあと

に後置詞 ko が来る場合には mujʰē のように1語となる形があります。

میز پر اخبار ہے۔ (mēz par axbār hai.)

机の上に、新聞がある。

صبح سے شام تک بارش ہوئی۔ (subah se šām tak bāriš huī.)

朝から夕方まで雨だった。

後置詞 par や se、tak についても、その前の名詞（相当語）が後置格となることに注意しましょう。